

# ほんがいっぱい



## よんでみよう!

### 5・6年生のための本

#### ① 『少年弁護士セオの事件簿 1 なその目撃者』

ジョン・グリシャム／作 石崎 洋司／訳 岩崎書店 《Fグ》

セオは、裁判所が大好きな13歳。彼が住んでいる町で殺人事件が起きた！決め手となる証拠がない中で始まった裁判。被告人は果たして白か黒か？そんな時、事件のカギを握る目撃者が現れた。セオだけがその存在を知っている！刻々とせまる評決のとき。どうする！セオ！！



#### ② 『ピートのスケートレース 第二次世界大戦下のオランダで』

ルーズ・ボーデン／作 ニキ・ダリー／絵 ふなと よし子／訳 福音館書店 《Eデ》

10歳のピートはスケートが大好き。ある時、国境をこえ、凍った運河をすべる重大な仕事をまかされた。ドイツ兵の目をぬすみ、危機がせまっているヨハンナとその弟を無事にベルギーのおばさんに送りどけるのだ。ピートのスケートの力と本当の勇気がためされる。



ところざわりつところざわとしょかん ねん 所沢市立所沢図書館 2013年

#### ③ 『カイウスはばかだ』

ヘンリー・ウィンターフェルト／作 関 楠生／訳 いわなみしよてん 岩波書店 《Fウ》

はるか昔、古代ローマ帝国で事件が起きた。神殿の壁に「カイウスはばかだ。」というらくがきが見つかったのだ！犯人は死刑になるという。捕まったのはカイウスと同級生のルーフス。友人たちは無実を信じ、真犯人探しに乗り出す。そこへ、怪しい占い師が現れ…。



#### ④ 『ヘンダワネのタネの物語』

新藤 悦子／作 丹地 陽子／絵 ポプラ社 《Fシ》

1人で絵ばかり描いていて、ヘンな女子といわれている直。サッカーが得意でクラスでも人気者のイラン人のアリ。同じクラスでも、ほとんど話したことがない2人だったが、ある日突然、直のおばさんの家に泊まりに行くことになった。学校と様子の違うアリを見て、直は…。



#### ⑤ 『ふしぎなオルガン』

リヒャルト・レアンダー／作 国松 孝二／訳 岩波書店 《Fレ》

むかし、神さまの思し召しにかなった花よめと花むこのために、ひとりで音をだすふしぎなオルガンがありました。けれどもそのオルガンを作った若者の結婚式では音ひとつたてませんでした。花よめのせいだと思った若者は…。

#### ⑥ 『9月0日大冒険』

さとう まきこ／作 田中 槇子／絵 借成社 《Fサ》

日めくりカレンダーに9月0日があられ、純たちの冒険が始まった。懐中電灯とナイフとほんの少しの水と食料。それだけを持って、純たちは進む。行く手にはティラノサウルスが…。そこは、恐竜の住む太古の世界だった。

⑦『かえだま』

こもり かおり さく え  
小森 香折 / 作 そが まい / 絵  
あさひがくせいしんぶんしゃ  
朝日学生新聞社 《Fコ》

ハンサムな若い男の顔がうつるあやしげなお茶。それを飲みほしたことで大和は明治時代にタイムスリップしてしまった！どうやらご先祖様の勇二郎と魂が入れ替わってしまったらしい。大和はもとの体に戻れるのか!?

⑨『天からふってきたお金』

てん かね  
アリス・ケルジー / 文 岡村 和子 / 訳 和田 誠 / 絵 岩波書店 《M》

「お金を一千クルシュください！」

ホジャは大きなこえで神さまにのっていました。からかってやろうと、となりの金持ちがお金をなげこみますが…。“天からふってきたお金”他、とんち者ホジャのゆかいな16のお話。

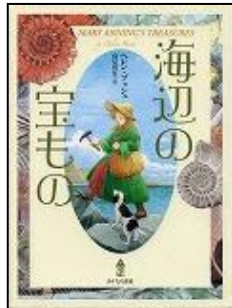


⑩『海辺の宝もの』

《28.9》

うみべ たから  
ヘレン・ブッシュ / 著 鳥見 真生 / 訳 佐竹 美保 / 画 あすなる書房

メアリーが住むライム・リージスの海辺は、化石の宝庫でした。とうさんに「変わり石(化石)集め」を教わると、メアリーは夢中になりました。海辺には金色のアンモナイトなど、宝ものがいっぱい！そして、とうとうだれも見つけない化石を発見します！



⑧『風と木の歌』

かぜ き うた  
あわ なおこ ちょ つかさ おさむ が  
安房 直子 / 著 司 修 / 画  
かいせいしゃ  
偕成社 《Fア》

ある時、山で道にまよったぼくは、ふしぎな子ぎつねのそめもの屋にであいました。青色にそまつた指で窓をつくってのぞいてみると…なんと、むかし大すきだったあの子のすがたが…。胸がキュツとなるふしぎなお話が8つ。

⑪『タマゾン川 多摩川でいのちを考える』

やまさき みつあき ちよ じゅんぼうしゃ  
山崎 充哲 / 著 旬報社 《51》

とあみ ひ あ  
投網を引き上げると、そこにはなぜかアマゾンの魚がいた。ここはアマゾンじゃない。これじゃ多摩川じゃなくて、“タマゾン川”だ！

日本にいるはずのない魚「外来種」はどこからやってきたのか、調査を続けると、ひとつの答えにたどりついた。魚たちは人間が身勝手に捨てたペットだったのだ。



⑫『風の島へようこそ』

かぜ しま  
アラン・ドラモンド / さく まつむら  
ゆりこ / やく 福音館書店 《50》

デンマークのサムス島ではいつも強い風がふいています。あるとき、この島でつかうエネルギーをすべて自分たちでつくる計画が持ち上がりました。その方法とは!?

⑬『さがしています』

さく おかくら ただし  
アーサー・ビナード / 作 岡倉 禎志  
しゃしん どうしんしゃ  
写真 童心社 《21》

げんぱく たいけん とき きぎ  
原爆を体験し、時を刻めなくなつた時計や、ひしゃげたやかん。空がピカアッと光った時からさがしています。大切な人たちを。あなたにもその「声」が聞こえますか。

⑭『どっさりのぼく』

こいけ まさよ へん おおた だいはち が  
小池 昌代 / 編 太田 大八 / 画  
あかね書房 《91.1》

とこや  
床屋さんにはぼくがどっさりいる?? 「どっさりのぼく」や「木はえらい」「朝のパン」など、日々のなにげない出来事から、生きることを考える詩がいっぱい!!

⑮『手で食べる?』

もりえだ たかし ぶん しゃしん ふくいんかんしよてん  
森枝 卓士 / 文・写真 福音館書店  
《38》

て た  
手で食べるなんておぎょうぎがわるい? ごはんはおはしで食べるもの? でも、世界には手で食べている人たちもいる! ほかにどんな食べ方があるんだろう。